842

つゞき　ひく〳〵の抱茂川芸者の水滸さゞとちぎりるるくゝゆそぞのち
きぐうこそ人あのせたうそで
うゝぞうゝ成明し目と
ゝしねさまをべ乞君の
めひ用ゆもうろてさんへ
目ぶるうふ成　ごへ急用と
えとぐせ　剣さへ
ゝびあつちをどりうまい
（へる徒よ）とのそ
しり赤んちいえんじゃのさゝへとうく〳〵う
とんぼ　みえそな　ぢさんの（つゞく）

内蔵助
主税
浴衣七
つぎ
十平次
吉右エ門

つゞき

亡君の御ぜんを守護の人〳〵十三人
和泉屋藤四郎殿
せーぐ大石二日そのゝちうたれ義士の面〳〵大
ひやうり藤よりかんぜいきのとき
矢頭清義七
ちゝ長右ゑもん分は殉死なれども
忠義へ重たる志

▲のすめ
ぜんぜん
の人〳〵が
りるとのをあのどくち
つゞきて武士の藤付と云出ゆも

▲たゝうとう
らぐ義
てすゝ成
藤むく
ゝとも
きひて
一どう
あん
ど
ゐま
とうう
こふ

大石は泉岳のうへ人をとゝ解て
のちは分別ことゝ成こゝは拙者
人〳〵あゝと出入のたりまへらるゝ
なる門人の組りもうそうう
藤ゆも敵ゆもこゝ功とゝ
藤の斗級よりはあゝと良雄と
用ひ桐とゝ藤ゆ藤ゆとゝ
みりゝ藤ゆ藤ゆ藤ゆ藤ゆ
ゝ藤ゆ藤ゆ一同そ藤ゆ藤ゆ
ゝ藤ゆ藤ゆ藤ゆ藤ゆ
ゝ藤ゆ藤ゆ藤ゆ藤ゆ
ゝ藤ゆ藤ゆ藤ゆ藤ゆ

くみ

◐末
ひゝ屋
内志の
者ふ

つゞき

つゞき

大石内蔵助

▲拘束は大石
より離と初め
糸会の
人々我く
ご祝よ
ろこんで
孫者の
出よう
も尚
嘗し
と結
一同
湯義

あごや湯義
孫どもの
祝歌の家中で
なほ是だけの用よ
うべくちひ
ものを
ひとも
お組ぐ
者共家の
間の後
回面我
入ッ
湯義
七ヶ
大功
我
業
年
大石
名誉
名誉
ようて
の器械と
利云々
さんと一家
連
つゞき

大石の利湯

つゞき
大三郎
吉千代
大石妻お石
石塚源兵エ
大石内蔵助
祝ゞ

つゞき
大石内蔵助
同主税

つゞき

名此時同志の者ども忠雄が知せを聞
落つゝ者ども紀藩なる八連判帳を新せる而
去る程へと奮ひ名此時十郎右衛門▲

義士連判帳

▲吉良上野介義央が
館人討ん為せ大
義の為大石内蔵
之助

大石内蔵助良雄
吉田忠左衛門兼亮
原惣右衛門元辰
片岡源五右衛門高房
磯貝十郎左衛門正久
小野寺十内秀和
茅野和助常成
間瀬孫九郎正周
潮田又之丞高教

千馬三郎兵衛光忠
大高源吾忠雄
貝賀弥左衛門友信
吉田伝右衛門兼定
村松喜兵衛秀直
武林唯七隆重
中村勘助正辰
倉橋傳助武幸
杉野十平次次房

近松勘六行重
潮田又之丞高教
赤埴源蔵重堅
束見義左衛門政光
奥田孫太夫重盛
矢田五郎右衛門
大石瀬左衛門信清
大石主税良金
堀部安兵衛良隆
菱谷半之丞政則
木村岸右衛門貞行
原惣右衛門元辰
原惣右衛門元辰
原惣右衛門元辰
中村勘助正辰

間 新六 光風
茅野和助常房
岡島八十右衛門常樹
勝田新左衛門武尭
神崎与五郎則休
間 平次郎光興
矢田定右衛門行高
矢頃右衛門七教忠
間瀬孫九郎正周
村松三太夫高直
菱谷半之丞政則
木村岸右衛門成
横川勘平宗利
不破数右衛門正種
中村勘助正辰
千馬三郎兵衛光忠
大石信右衛門信

つゞき

二

[illegible]平余人どもと一同をとらへて
この夜表長家の連中の大事なる上座
[illegible]桑の舎と俳人[illegible]大家
[illegible]処[illegible]
[illegible]
[illegible]

武林唯八
大石主税
吉良上野介
つぎ
大石内蔵助
堀部安兵衛
赤垣源蔵
堀部弥兵衛

御届 明治十三年九月二日
編輯兼出版人 荒川吉五郎
本所区緑町四丁目五十一番地

石川五右衛門一代記
明治十三年七月百出版御願

鬼神の於春　全二冊

水戸黄門記　全二冊

地本錦絵おろし　本所区緑町四丁目五十一番地　荒川吉五郎版